（別　紙）

横浜市道路局施設課

■街路樹の異常についての確認ポイント（例）

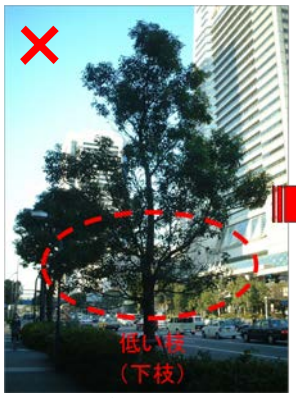
1　枯木・枯れ枝

（枯木）

（太い枯れ枝）

倒木や落枝の危険があります。落葉樹は葉がある時期（初夏から秋まで）に確認します。

2　低い位置の枝（建築限界以下の枝）



（低い枝）

（正しい樹形）

建築限界（高さ車道側 4.5m、歩道側 2.5m）以下の低い枝は、車や人に当たる危険があります。

3　樹木の傾斜・不自然な揺らぎ

←樹木（幹）が縁石より車道側へ出ていると車に当たる危険があります。

また、手で押した程度で揺れる樹木は根が腐っている可能性があります。

4　幹や根元の大きな腐朽、空洞（うろ）

←幹周の長さの 1/3 以上が空洞（うろ）になっていると倒木、幹折れの危険性がきわめて高くなります。

5　キノコ（ベッコウタケ、コフキタケ）

←ベッコウタケ（黄色いキノコ）は根を急速に腐らせる怖い木材（材質）腐朽菌です。6～8 月頃によく見られます。

←コフキタケ（コフキサルノコシカケ）なども要注意です（通年）。いずれも樹木を腐らせ倒木の原因になります。

6　根による舗装の段差（根上がり）

←根の生長によって出来る歩道の大きな段差は、歩行者の転倒事故の原因になります。

←土砂流出による植樹桝の段差、特に歩道の中央部にあるものは要注意です。

（参考となる資料）

「**街路樹倒伏対策の手引き**」（平成 24 年 1 月　国土交通省国土技術施策総合研究所資料）

http://www.nilim.go.jp/lab/bcg/siryou/tnn/tnn0669.htm

→第２章「予備診断」（P.1-15）に、樹木の異常の指標となる内容が詳しく記載されています。